(19)日本国特許庁(JP)　(12)登録実用新案公報(U)　(11)実用新案登録番号
実用新案登録第3152338号
(U3152338)
(45)発行日　平成21年7月30日(2009.7.30)　(24)登録日　平成21年7月8日(2009.7.8)

(51)Int.Cl.　　F I
A47F 5/10 (2006.01)　A47F 5/10 C
A47F 5/00 (2006.01)　A47F 5/00 C

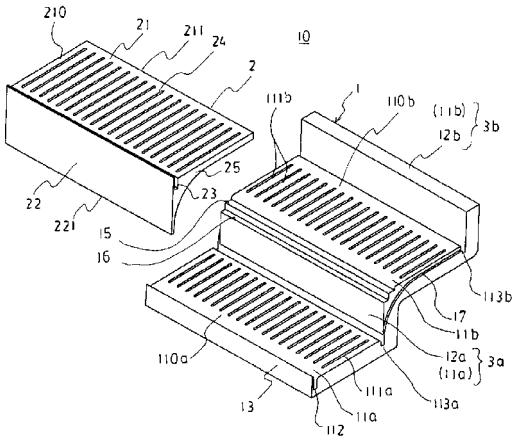
評価書の請求 未請求　請求項の数 7　ＯＬ　（全 9 頁）

(21)出願番号　実願2009-2558(U2009-2558)
(22)出願日　平成21年4月21日(2009.4.21)

(73)実用新案権者　394016874
河淳株式会社
東京都中央区日本橋浜町３丁目１５番１号
(74)代理人　100098682
弁理士　赤塚　賢次
(74)代理人　100071663
弁理士　福田　保夫
(74)代理人　100131255
弁理士　阪田　泰之
(72)考案者　鮎澤　佳雅
東京都中央区日本橋浜町３丁目１５番１号
河淳株式会社内

(54)【考案の名称】複式商品陳列台及び複式商品陳列台キット

(57)【要約】
【課題】ひな壇形状の陳列面の一部又は全部を広い水平陳列面として使用することが可能な複式商品陳列台を提供すること。
【解決手段】第１水平板１１ａと第１水平板の後端側の一端から鉛直上向に延びる第１鉛直板１２ａとからなる単位段差部３ａ、３ｂの２つを前後方向に連接してなるひな壇形状の陳列基台１と、第２水平板２１と第２水平板の先端側の一端から鉛直下向に延びる第２鉛直板２２とからなる補助台を組み合わせてなる複式商品陳列台１０であって、下段の単位段差部の第１鉛直板１２ａと上段の単位段差部の第１水平板１１ｂの接続部分である外角部に、補助台２の第２水平板２１の後方縁部が載置する段差１５を設け、下段の単位段差部の第１水平板１１ａの先端部に、補助台２の第２鉛直板２２の下端縁部が嵌る係合溝１１２を設けたことにより、２通りの陳列形態を演出する。
【選択図】図１



【実用新案登録請求の範囲】
【請求項１】
第１水平陳列面を有する第１水平板と該第１水平板の後端側の一端から鉛直上向に延びる第１鉛直板とからなる単位段差部の２つを前後方向に連接してなるひな壇形状の陳列基台と、
第２水平陳列面を有する第２水平板と該第２水平板の先端側の一端から鉛直下向に延びる第２鉛直板とからなる補助台と、
を組み合わせてなる複式商品陳列台であって、
下段の単位段差部の第１鉛直板と上段の単位段差部の第１水平板の接続部分である外角部に、該補助台の第２水平板の後方縁部が載置する段差を設け、下段の単位段差部の第１水平板の先端部に、該補助台の第２鉛直板の下端縁部が嵌る係合溝を設け、該補助台の第２水平板の後方縁部を該段差に載せ、第２鉛直板の下端縁部を該係合溝に嵌めることで、第１水平陳列面と第２水平陳列面が前後方向に連続する面一の陳列面としたことを特徴とする複式商品陳列台。
【請求項２】
該下段の単位段差部の内角部に、該補助台の第２鉛直板の下端縁部が嵌る第２係合溝を形成し、該補助台の第２鉛直板の下端縁部を該第２係合溝に嵌め、該第２水平板を該上段の単位段差部の該第１水平板に重ねるように載置することで、階段状の陳列面としたことたことを特徴とする請求項１記載の複式商品陳列台。
【請求項３】
該下段の単位段差部の第１鉛直部と該上段の単位段差部の第１水平部の両側面に、側面形状が上方に凸のアーチ状となる側面段差を設け、該補助台に、該アーチ状の側面段差に合致する同様の側面形状を有する側板を設けたことを特徴とする請求項１又は２に記載の複式商品陳列台。
【請求項４】
該段差の先端側で且つ下方に該段差に連続する第２段差を設け、該補助台の裏側の内角部に、該第２段差に載置する突起部を設けたことを特徴とする請求項１～３のいずれか１項に記載の複式商品陳列台。
【請求項５】
第１水平陳列面及び第２水平陳列面に、左右方向に所定のピッチで形成され、前後方向に延びる商品仕切り板が嵌る貫通縦孔を複数形成したことを特徴とする請求項１～４のいずれか１項に記載の複式商品陳列台。
【請求項６】
請求項１～５のいずれか１項に記載の複式商品陳列台を複数台準備し、前後方向に接続したことを特徴とする複式商品陳列台キット。
【請求項７】
請求項６記載の複式商品陳列台キットを複数台準備し、左右方向に隣接して並べてなることを特徴とする複式商品陳列台ニット。
【考案の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本考案は、スーパーや百貨店などの店内でビニール袋に包まれた衣料などの商品の陳列に好適な複式商品陳列台及び複式商品陳列台キットに関するものである。
【背景技術】
【０００２】
近年、スーパー、百貨店、専門店、コンビニエンスストアー等の店内で例えば商品の陳列に使用される商品陳列棚として、商品を載置する１以上の斜面を一方向に隣接して設け、この一方向一端に商品落下防止部を有して表陳列面を構成し、該表陳列面の裏側に仕切り板の嵌合溝を少なくとも１以上設けて裏陳列面を構成してなり、例えば陳列ケース内に高さ可変の設置台を配設し、該設置台に商品陳列棚の前記表陳列面及び裏陳列面のいずれ

か一方を置き、いずれか他方に商品を陳列する陳列棚が知られている（特開２００１－１９７９８４号公報）。この商品陳列棚は、少ない部品で、商品の多様化、頻繁に起こる模様替えに十分に対応出来、模様替えの度に不用となったり、新たに購入する必要性を少なくし、かつ保管のためのスペースを減らすことができる効果があり、極めて有用な陳列棚である。

【０００３】

また、前方下り傾斜の設置面を備える基台に設置するひな壇状の陳列面を有する商品陳列台が開示されている（登録意匠番号１２４５０６１号）。この商品陳列台を傾斜面に設置した場合、各段（単位段差部）の形状が、商品を載置するに好適な形状となるため、趣のある陳列形態を演出できるとともに、商品の陳列安定性が向上する。

【先行技術文献】

【特許文献】

【０００４】

【特許文献１】特開２００１－１９７９８４号公報

【非特許文献１】登録意匠番号１２４５０６１号

【考案の概要】

【考案が解決しようとする課題】

【０００５】

しかしながら、Ｙシャツ、肌着、ストッキング等のビニール袋に梱包された衣料品の展示に際しては、商品の種類が多様であるため、上記の商品陳列台はビニール袋に梱包された衣料品の陳列には不向きで、むしろ食材などの陳列に使用されてきた。一方、ビニール袋に梱包された衣料品の陳列に際しては、専用のアクリルのボックスが使用されているが、商品のサイズ毎の使用となり、専用ボックスとなり、他の商品に転用して使用することができず、趣のある陳列ができないものであった。そこで、従来のひな壇状の陳列面を有する商品陳列台において、ひな壇形状の陳列面の一部又は全部を広い水平陳列面として使用できれば、趣のある陳列を少なくとも２通りで演出できるため、顧客の目をひきつけることができる。

【０００６】

従って、本考案の目的は、ひな壇形状の陳列面の一部又は全部を広い水平陳列面として使用することが可能な複式商品陳列台及び複式商品陳列台キットを提供することにある。

【課題を解決するための手段】

【０００７】

本考案は、第１水平陳列面を有する第１水平板と該第１水平板の後端側の一端から鉛直上向に延びる第１鉛直板とからなる単位段差部の２つを前後方向に連接してなるひな壇形状の陳列基台と、第２水平陳列面を有する第２水平板と該第２水平板の先端側の一端から鉛直下向に延びる第２鉛直板とからなる補助台と、を組み合わせてなる複式商品陳列台であって、下段の単位段差部の第１鉛直板と上段の単位段差部の第１水平板の接続部分である外角部に、該補助台の第２水平板の後方縁部が載置する段差を設け、下段の単位段差部の第１水平板の先端部に、該補助台の第２鉛直板の下端縁部が嵌る係合溝を設け、該補助台の第２水平板の後方縁部を該段差に載せ、第２鉛直板の下端縁部を該係合溝に嵌めることで、第１水平陳列面と第２水平陳列面が前後方向に連続する面一の陳列面としたことを特徴とする複式商品陳列台を提供するものである。

【０００８】

また、本考案は、前記複式商品陳列台を２台準備し、前後方向に接続して４段のひな壇状の陳列面とすることを特徴とする複式商品陳列台キットを提供するものである。

【考案の効果】

【０００９】

本考案によれば、２つの部材の組み合わせを変えるだけで、ひな壇形状としたり（第２の陳列形態）、１段で広い水平陳列面としたり（第１の陳列形態）して使用することができる。

【図面の簡単な説明】
【００１０】
【図１】本実施の形態における複式商品陳列台の分解斜視図である。
【図２】本例の複式商品陳列台を構成する陳列基台の側面図である。
【図３】本例の複式商品陳列台を構成する補助台の裏側から見た斜視図である。
【図４】本実施の形態における複式商品陳列台の斜視図である。
【図５】図４の複式商品陳列台の側面図である。
【図６】本実施の形態における複式商品陳列台の他の斜視図である。
【図７】図６の複式商品陳列台の側面図である。
【図８】本実施の形態における複式商品陳列台キットの斜視図である。
【図９】他の実施の形態における複式商品陳列台キットの斜視図である。
【図１０】他の実施の形態における複式商品陳列台キットの斜視図である。
【考案を実施するための形態】
【００１１】
次ぎに、本考案の実施の形態における複式商品陳列台を図１～図７を参照して説明する。複式商品陳列台は、陳列基台１と補助台２を組み合わせてなるものである。本明細書において、「前後」及び「左右」は顧客側から見た方向を言う。
【００１２】
陳列基台１は第１水平陳列面１１０ａを有する第１水平板１１ａと第１水平板１１ａの後端側の一端から鉛直上向に延びる第１鉛直板１２ａとからなる下段の単位段差部３ａと、第１水平陳列面１１０ｂを有する第１水平板１１ｂと第１水平板１１ｂの後端側の一端から鉛直上向に延びる第１鉛直板１２ｂとからなる上段の単位段差部３ｂとからなり、単位段差部３ａと単位段差部３ｂは前後方向に連接してなるひな壇形状の陳列面を形成している。すなわち、下段の単位段差部３ａの第１鉛直板１２ａと上段の単位段差部３ｂの第１水平板１１ｂは連続一体化している。陳列基台１はプラスティック製であり、全体は薄板状で裏面には補強リブが付設された構造である。
【００１３】
陳列基台１は下段の単位段差部３ａの第１鉛直板１２ａと上段の単位段差部３ｂの第１水平板１１ｂの接続部分である外角部に、２つの段差１５、１６が設けられている。２つの段差１５、１６は共に、幅方向全長に形成されている。上の段差１５は補助台２の第２水平板２１の後方縁部２１１が載置する段差であり、補助台２を支持する部分である。これにより、上段の単位段差部３ｂの第１水平陳列面１１０ｂと補助台２の第２水平陳列面２１０が前後方向に連続する面一の陳列面とすることができる（第１の陳列形態）。
【００１４】
下の段差１６は、第２の陳列形態において、補助台２の裏側の内角部に形成される矩形断面の棒状の突起部２６を支持する部分となる。このような段差１６及び突起部２６を設けることで、第２の陳列形態における設置が安定する。陳列基台１において、下の段差１６及び突起部２６は任意の構成要素であり、省略されていてもよい。
【００１５】
陳列基台１には、下段の単位段差部３ａの第１水平板１１ａの先端部に、補助台２の第２鉛直板２２の下端縁部２２１が嵌る係合溝１１２が設けられている。係合溝１１２は第１の陳列形態において使用されるものであり、補助台２の第２鉛直板２２の下端縁部２２１を係合溝１１２に嵌め込むことで、第１の陳列形態における設置が安定する。係合溝１１２を形成する前板１３の高さは、第１水平陳列面１１０ａと同等もしくは第１水平陳列面１１０ａよりやや高く形成する。前板１３の高さが、第１水平陳列面１１０ａより高いと、第２鉛直板２２の係合が安定すると共に、商品の設置も安定する。
【００１６】
陳列基台１には、下段の単位段差部３ａの内角部に、補助台２の第２鉛直板２２の下端縁部２２１が嵌る第２係合溝１１３ａが設けられている。第２係合溝１１３ａは第２の陳列形態において使用されるものであり、補助台２の第２鉛直板２２の下端縁部２２１が第

２係合溝１１３ａに嵌め込むことで、第２の陳列形態における設置が安定する。

【００１７】

補助台２の第２鉛直板２２の下端縁部２２１を第２係合溝１１３ａに嵌め、第２水平板２１を上段の単位段差部３ｂの第１水平板１１０ｂに重ねるように載置することで、階段状の陳列面を形成できる（第２の陳列形態）。

【００１８】

陳列基台１には、上段の単位段差部３ｂの内角部に、第３係合溝１１３ｂが設けられている。第３係合溝１１３ｂは商品情報などが表示された表示ボード（不図示）などが設置される。第３係合溝１１３ｂは陳列基台１の任意の構成要素である。

【００１９】

陳列基台１には、下段の単位段差部３ａの第１鉛直部１２ａと上段の単位段差部３ｂの第１水平部１１ｂの両側面に、側面形状が上方に凸のアーチ状となる側面段差１７が形成されている。側面段差１７は第２の陳列形態において使用されるものであり、補助台２の側板２５の端面が側面段差１７と係合することで、第２の陳列形態における設置が安定する。側面段差１７は、陳列基台１の任意の構成要素である。

【００２０】

陳列基台１には、第１水平陳列面１１０ａ、１１０ｂに、左右方向に所定のピッチで形成され、前後方向に延びる貫通縦孔１１１ａ、１１１ｂが複数形成されている。これにより、板状の商品仕切り板を嵌め込むことができ、商品陳列面を多区分に区分けでき、多種類の商品の陳列に好適なものとなる。

【００２１】

補助台２は、第２水平陳列面２１０を有する第２水平板２１と第２水平板２１の先端側の一端から鉛直下向に延びる第２鉛直板２２とからなる。補助台２の幅寸法は、陳列基台１の幅寸法に等しいものである。補助台２は、陳列基台１に組み付けることで、第１の陳列面と第２の陳列面を形成するものである。陳列基台１はプラスティック製であり、図では省略するが、全体は薄板状で裏面には補強リブが付設される構造である。

【００２２】

補助台２には、第２水平板２１の先端部分に、第４係合溝２３が形成されている。これにより、商品情報を表示する表示ボードや商品の転落を防止するボードが設置できる。

【００２３】

補助台２には、アーチ状の側面段差１７に合致する同様の側面形状を有する側板２５が形成されている。側板２５は第２の陳列形態において利用されるものであり、補助台２の側板２５の端面が側面段差１７と係合することで、第２の陳列形態における設置が安定する。側板２５は補助台２の任意の構成要素である。

【００２４】

補助台２には、第２水平陳列面２１０に、左右方向に所定のピッチで形成され、前後方向に延びる貫通縦孔２４が形成されている。これにより、板状の商品仕切り板を嵌め込むことができ、商品陳列面を多区分に区分けでき、多種類の商品の陳列に好適なものとなる。貫通縦孔２４は、陳列基台１に組み付けた際、陳列基台１の貫通縦孔２４と対峙する位置に形成される。

【００２５】

補助台２には、裏側の内角部に、陳列基台１の第２段差１６に載置する矩形断面形状の棒状部材である突起部２６が形成されている。これにより、第２の陳列形態における設置が安定する。補助台２において、突起部２６は任意の構成要素であり、省略されていてもよい。

【００２６】

補助台２の第２水平陳列面２１０の奥行き長さは、補助台２の第２鉛直板２２を、陳列基台１の係合溝１１２に嵌め込んだ際、陳列基台１の上側の段差１５に第２水平陳列面２１０の先端が載るような長さである。また、補助台２の第２鉛直板２２の高さ寸法は、補助台２の第２鉛直板２２を、陳列基台１の係合溝１１２に嵌め込み、第２水平陳列面２１

０の先端縁を段差１５に載置した際、第２水平陳列面２１０が水平となるような高さである。

【００２７】

また、陳列基台１において、係合溝１１２の先端の内壁から段差１５の後端までの水平方向における寸法と、第２係合溝１１３ａの先端の内壁から第３係合溝の先端の内壁までの水平方向における寸法は同じである。また、第２係合溝１１３ａの溝の深さは、係合溝１１２の溝の深さより、補助台２の第２水平板２１の厚み分だけ浅い。これにより、第１の陳列形態及び第２の陳列形態共に、安定した設置を実現できる。

【００２８】

本例の複式商品陳列台１０において、第１の陳列形態は、図４及び図５に示すように、補助台２の第２水平板２１の後方縁部２１１を段差１５に載せ、第２鉛直板２２の下端縁部を係合溝１１２に嵌めることで得られる。これにより、上段の単位段差部３ｂの第１水平陳列面１１０ｂと補助台２の第２水平陳列面２１０が前後方向に連続する面一の陳列面となる。このような陳列面は、Ｙシャツ、肌着、ストッキング等のビニール袋に梱包された衣料品の多量の陳列に好適である。

【００２９】

本例の複式商品陳列台１０において、図６及び図７に示すように、第２の陳列形態は、補助台２の第２鉛直板２２の下端縁部を第２係合溝１１３ａに嵌め込み、第２水平板２１を上段の単位段差部３ｂの第１水平板１１ｂに重ねるように載置することで得られる。これにより、階段状の陳列面となる。このような陳列面は、上段と下段に異なる商品を陳列することができる。また、それぞれの鉛直部材を背もたれとすれば、陳列商品を立てるような陳列も可能である。

【００３０】

複式商品陳列台１０の設置は水平面及び段差面のいずれにも設置できる。水平面への設置の場合、図２に示すような、設置面の上に補助基台１９を設置し、補助基台１９の上面に上段の単位段差部３ｂを載せる形態であってもよい。また、段差面への設置の場合、下段面に下段の単位段差部３ａの第１水平板１１ａを載せ、上段面に上段の単位段差部３ｂの第１水平板１１ｂを載せる形態であってもよい。

【００３１】

本例の複式商品陳列台１０において、陳列基台１と補助台２の組み付けは、単に係合溝と段差の利用のみであってもよいが、係合溝と段差の他に、更に陳列基台１の表面に嵌合凹部、補助台２の裏面に該嵌合凹部と対峙する位置に嵌合凸部を形成し、これを嵌合させて、組み付けの補強を図ってもよい。

【００３２】

また、本考案の実施の形態における複式商品陳列台キットを図８～図１０を参照して説明する。図８～図１０の複式商品陳列台キットにおいて、図１～図７の複式商品陳列台と同一構成要素には同一符号を付して、その説明を省略し、異なる点について主に説明する。複式商品陳列台キット２０は、複式商品陳列台を複数台準備し、前後方向（直列）に接続したものである。複数としては、２～４、好適には２又は３である。

【００３３】

図８の複式商品陳列台キット２０は、第２の陳列形態の複式商品陳列台を２台準備し、前後方向に接続したものである。２台の複式商品陳列台１０、１０の接続は、例えば下段の複式商品陳列台の上段の単位段差部３ｂの第１鉛直板の上端面に複数個の嵌合孔を形成し、上段の複式商品陳列台の下段の単位段差部３ａの第１水平板の先端側の裏面に複数個の嵌合突起を形成し、該嵌合孔と該嵌合突起を嵌合させるものであってもよい。図８の複式商品陳列台キット２０によれば、４段のひな壇状の陳列面を形成できる。

【００３４】

図９の複式商品陳列台キット２０は、第１の陳列形態の複式商品陳列台を２台準備し、前後方向に接続したものである。２台の複式商品陳列台１０、１０の接続は、上記の接続例と同様の方法が挙げられる。図９の複式商品陳列台キット２０によれば、大きな２段の

ひな壇状の陳列面を形成できる。

【００３５】

図１０の複式商品陳列台キット３０は、第２の陳列形態の複式商品陳列台を２台準備し、前後方向に接続し、更にこの接続された複式商品陳列台キット２０を４台準備し、左右方向に隣接して並べた（並列）ものである。左右方向に並べる個数は４台に限定されず、複数個の中から適宜決定される。左右方向の隣接方法としては、例えば、そのまま並べる方法及び接合部材による接合方法が挙げられる。接合部材による接合方法としては、一の複式商品陳列台キット２０の側面に複数個の嵌合孔又は嵌合突起を形成し、これに隣接する他の複式商品陳列台キット２０の対向する側面に複数個の嵌合突起又は嵌合孔を形成し、一方の嵌合突起と他方の嵌合孔を嵌合させる方法である。

【００３６】

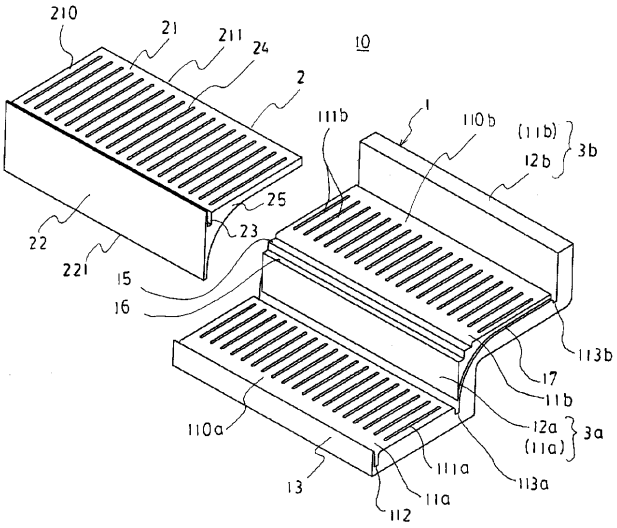
図１０の複式商品陳列台キット３０において、商品仕切り板Ａが左右方向に所定のピッチで６個、前後方向に所定のピッチで２個、都合１２個使用されている。商品仕切り板Ａは、前後方向に２個使用しているため、１つの商品仕切り板Ａは、ひとつの複式商品陳列台１０に使用されることになる。これにより、より多区分の区画をすることができ、商品サイズが多様な、Ｙシャツ、肌着、ストッキング等のビニール袋に梱包された衣料品の陳列に適したものとなる。なお、左右方向のピッチは使用目的などにより低適宜決定され、また商品仕切り板Ａの使用個数も使用目的などにより低適宜決定される。

【符号の説明】

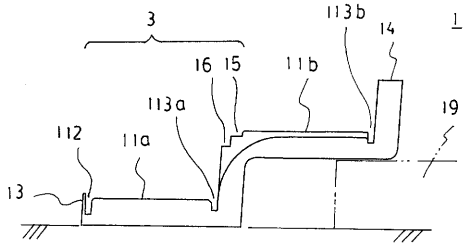
【００３７】

１	陳列基台
２	補助台
３ａ	下段の単位段差部
３ｂ	上段の単位段差部
１１ａ、１１ｂ	第１水平板
１２ａ、１２ｂ	第１鉛直板
１５	上の段差
１６	下の段差
２１	第２水平板
２６	矩形断面の棒状の突起部
１１０ａ、１１０ｂ	第１水平陳列面
２１１	後方縁部
２１０	第２水平陳列面

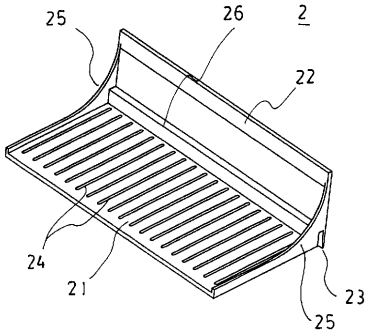
【図１】



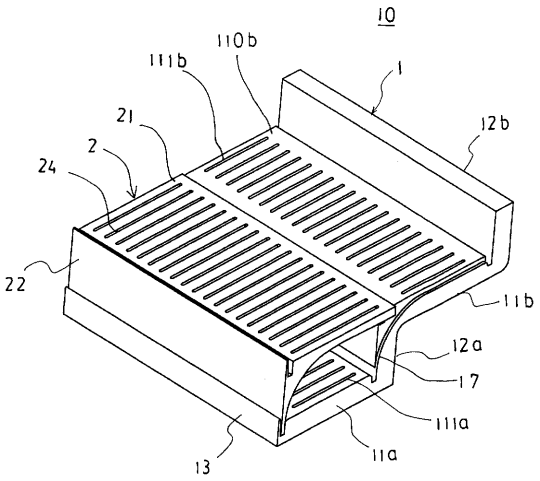
【図２】



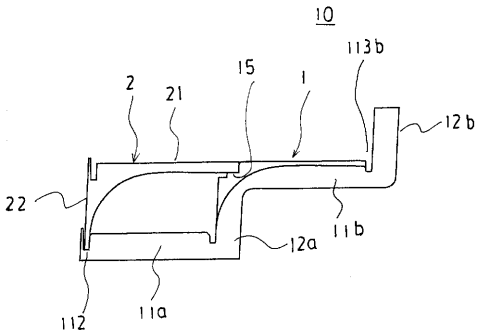
【図３】



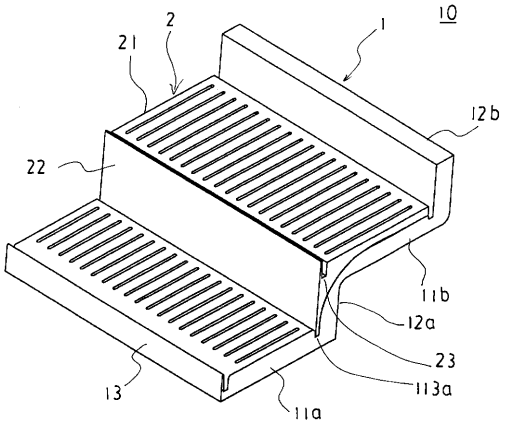
【図４】



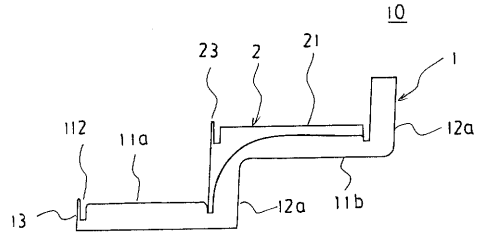
【図５】



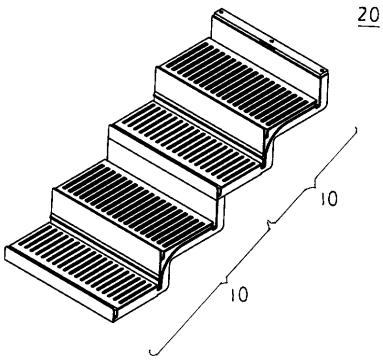
【図６】



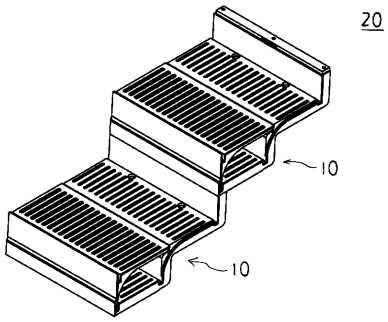
【図７】



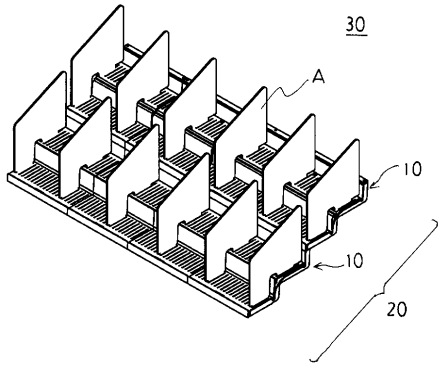
【図８】



【図９】



【図１０】



【手続補正書】
【提出日】平成21年5月25日(2009.5.25)
【手続補正１】
【補正対象書類名】実用新案登録請求の範囲
【補正対象項目名】請求項２
【補正方法】変更
【補正の内容】
【請求項２】
該下段の単位段差部の内角部に、該補助台の第２鉛直板の下端縁部が嵌る第２係合溝を形成し、該補助台の第２鉛直板の下端縁部を該第２係合溝に嵌め、該第２水平板を該上段の単位段差部の該第１水平板に重ねるように載置することで、階段状の陳列面としたことを特徴とする請求項１記載の複式商品陳列台。
【手続補正２】
【補正対象書類名】実用新案登録請求の範囲
【補正対象項目名】請求項７
【補正方法】変更
【補正の内容】
【請求項７】
請求項６記載の複式商品陳列台キットを複数台準備し、左右方向に隣接して並べてなることを特徴とする複式商品陳列台キット。